

令和元年度中国姉妹校短期派遣レポート

令和元年度の中国姉妹校短期派遣留学は、校内選考で選ばれた4人(3年生2人, 2年生1人, 1年生1人)と職員3人で行ってきました。匯文(カイブン)中学校へは3年ぶりの公式訪問になります。

10月17日(木)(出発・移動日)



鹿児島中央駅



青島空港

鹿児島中央駅を朝10時に出発。この時点の生徒達は期待よりも緊張感でいっぱいの様子。福岡空港を出発後、青島(チンタオ)空港で無事に入国審査を終え、北京空港に現地時間18時45分に到着。匯文中学校のリー先生とワン先生が迎えに来てくださいました。平成30年の4ヵ国サミット以来の再開でしたが生徒のことをおぼえていてくださいました。北京からさらに3時間移動し、夕食はワゴン内で済ませ日本時間の23時30分によやく天津(テンチン)市のホテルに到着しました。



北京空港



日付が変わる頃に天津市到着

10月18日(金)

短期派遣2日目です。ホテルの朝食は国土の広い中国の食文化の多様性を体験できました。主に南の方ではおかゆを食べ、北のほうではマントウというまんじゅうを食べるそうです。中央の卵のクレープは辛い味噌が入った甘くないものです。



ホテルの朝食

朝食後歩いて天津大学の競技場へ向かい、匯文中学校体育祭を見学しました。開会式ではクラスごとの行進、パフォーマンスが行われましたが、競技中はBGMもなくゴールテープもな

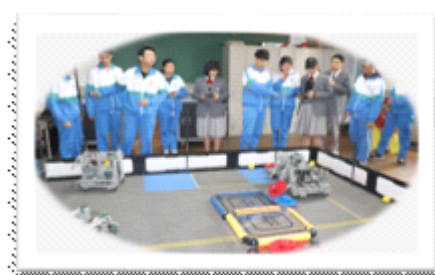


い。グラウンド内では砲丸投げや走り幅跳び等もあり、体力測定と運動会がミックスされた感じでした。

午後から匯文中学校で歓迎式があり、今後も姉妹校交流を続けていくこと等を確認し、その後校内を案内してもらい、ロボコン・木材加工・3D画像による授業を体験させていただきました。



歓迎式



ロボコン実習

10月19日(土)

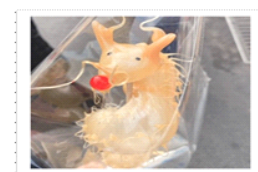
短期派遣3日目はいよいよホストファミリーとの対面です。生徒はそれぞれの担当のファミリーと一緒に半日過ごします。天津市内を散策したり、古い繁華街で飴細工を作ったり、いろいろな食べ物を食べたりしました。授業で習った中国語に加え、ボディランゲージも駆使して意思疎通をはかるなど、とても充実した時間が流れていました。



ホストファミリーとの対面



古い繁華街



飴細工

10月20日(日)

短期派遣4日目は、天津市を朝4時に出発し、車で3時間かけて北京市へ移動、万里の長城に到着。



長城はなだらかなイメージがありましたが、実際に歩いてみるとかなり急な坂道で、登り下りは手すり無しでは転げ落ちてしまうほど。世界中からの観光客であふれており、すれ違うときは転倒しそうでとても危険！



長城の麓の農村レストランでは、昔ながらの農家の料理を提供してもらいました。レストランの方が作業をしながら会話をしていたのですが「ケンカしているのか!？」と思うほどの大きな声でびっくり。でも「中国では普通だよ」とのこと。

10月21日(月) 帰国の朝

短期派遣5日目です。北京のホテルを朝5時に出発。「必ずまた会いましょう」と約束を交わしチンタオ空港行きの便に乗りました。

今回の中国姉妹校短期派遣留学をとおして、さまざまな文化の違いを感じ、我々日本人が中国の方々に見習うべきこともありましたが、その逆もあるように感じました。今後も第2外国語や英語をしっかりと勉強しないといけないと痛感させられた短期派遣でした。生徒・職員共に今回の派遣をとおしてお互いの国の架け橋になれるように頑張りたいという気持ちがさらに高まりました。



北京空港



また会う日まで